

まちづくりの羅針盤

「第六次美浜町総合振興計画」 がスタートします！

町では、令和8年度から10年間のまちづくりの方向性を示す「第六次美浜町総合振興計画」を策定しました。

今月号では、本計画の概要や策定までの経緯、計画に定めた将来像やまちづくりの指針等についてお知らせします。

◆美浜町総合振興計画とは

総合振興計画とは、町民・事業者・行政等、町の構成員が一体となってまちづくりに取り組むため、その基本的な考え方や目指す将来像、またその実現のための具体的な手段を示した「まちづくりの羅針盤」となる計画です。

◆計画策定の背景

現在、人口減少や少子高齢化、デジタル技術の高度化等、本町を取り巻く社会環境は劇的に変化しています。また、自然災害の激甚化や地球温暖化、犯罪・事故への対策等、町民の生命と暮らしを守る「安全・安心」の確保は、より重要な課題となっています。

◆計画の構成と期間

①基本構想(10年)

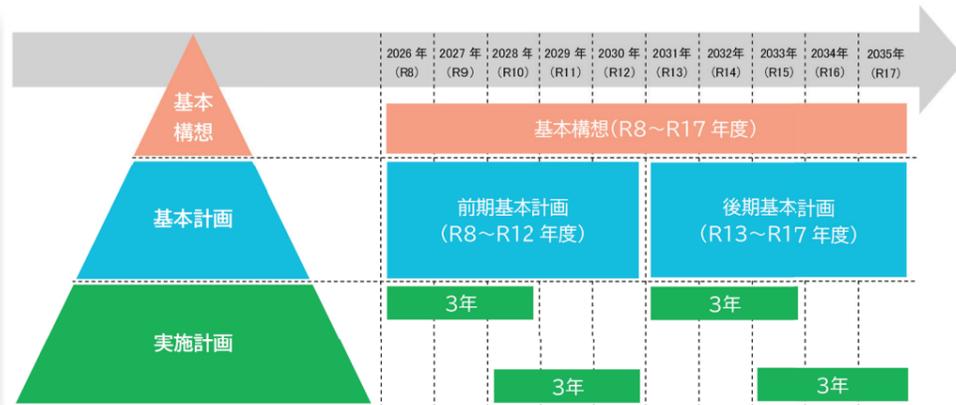
町の将来像やまちづくりの基本的な方向性を示すもの。

②基本計画(5年)

基本構想を実現するための政策を分野別に示すもの。

③実施計画(3年)

基本計画に基づく具体的な事業内容を示すもの。



わたしの夢、語ります

大西 權叶^{かいと}さん 美浜東小学校 6年(丹生)

動物たちを助けたい

僕の将来の夢は、犬や猫等の動物を保護して、助けてあげる仕事に就くことです。理由は、動物が大好きで、動物たちを助けてあげる人になりたいと思ったからです。

僕が住んでいる丹生地区には、野良猫がたくさんいて、よく見に散歩をしています。猫たちの中には、体や毛がボロボロになっているかわいそうな子がいて、その子たちを見て、ケガや病気をした動物たちを助けてあげたいと思うようになりました。

将来多くの動物たちを助けるために、今は保護施設の管理人さんに話を聞いたり、動物の生態や習性等について勉強しています。これからも勉強を続け、将来動物たちも人も幸せにできるような仕事をしたいです。



CONTENTS 目次 広報みはま2026年4月号

- 2 わたしの夢、語ります／表紙の写真／目次
- 3 「第六次美浜町総合振興計画」がスタートします！
- 10 令和8年度当初予算
- 14 中学校の休日部活動を地域移行します
- 16 まちウォッチング
2026きいばすはるまつり / 第65回美浜町民卓球大会 他
- 18 みはまのまなび通信 Vol.10
- 19 林野火災注意報・林野火災警報の運用を開始しました
- 20 情報BOX
自転車での交通違反に青切符(交通反則通告制度)が導入されます 他
- 25 美浜発電所の状況について
- 26 すこやか放送局
- 27 ふるさと昔よもやま話167／文芸欄
- 28 ハートフル広場
はじめてパースデー／町人さん／慶弔／人口の動き／広報クイズ
- 30 暮らしのカレンダー

- 表紙の写真 -



今月の特集に合わせ、第六次美浜町総合振興計画を羅針盤になぞらえました。

新たな計画は、本町が未来へ向かうための「道しるべ」です。先行き不透明な時代だからこそ、羅針盤が指し示す方向を信じ、迷いなく着実に歩みを進める町の姿勢を表現しました。



このまま人口減少・少子高齢化が進むと...

生活 空き家、空き店舗の増加
医療、福祉サービスの需要増加と担い手不足
小中学校の縮小・廃止
公共交通の縮小
土地の荒廃 (耕作放棄地)

行政 地域コミュニティの衰退
社会保障費の増大
社会インフラの劣化
税収の減少

産業 労働力不足
産業の衰退

まちの「基盤」の維持が困難に (持続可能性への懸念)

◆今後想定される町の課題

①現役世代の減少と進む高齢化

本町の人口推計をみると、今後最も厳しい局面を迎えることが予測されています。

35年後には、町の次の時代を担う「年少人口」や地域を支える「生産年齢人口」がおおよそ半減する一方、高齢化率は43・4%まで上昇する見込みです。これは、現役世代1人が高齢者1人を支えるという、これまでにない社会

構造への変化を意味しています。

人口減少により、労働力不足や空き家・耕作放棄地の増加、集落機能の低下等、これまで当たり前だった地域や社会の仕組みが維持できなくなる懸念もあります。

そのため、これからの10年間は、「いかに人口を維持するか」という視点に加え、「人口が減少しても、どうすれば豊かに暮らし続けるにどうすればよいか」という考え方が何よりも重要になります。

②若者、特に女性の転出が顕著

年代別の人口をみると、20代・30代の若年層、とりわけ女性の転出が続いています。

20代前半では就職を機に、希望する職種や生活の利便性を求めて町を離れる傾向があります。

また、20代後半から30代前半では、結婚・出産を機に、住居や買い物環境を求めて転出するケースが目立ちます。

若年層の減少は、これから美浜で生まれる子どもの減少に直結する問題です。若い世代が「ずっとここにいたい」と思える魅力がなければ、やがて町全体の活力が失われ、誰にとっても住みづらい場所になってしまいます。

だからこそ、若者や女性から「選ばれる町」になることが、今後10年間の重要課題です。仕事の選択肢を広げ、多様なニーズに応える住環境を整えることはもちろん、昔ながらの温かいつながりを大切にしながら、一人ひとりの生き方を尊重する「風通しの良い地域」づくりが求められます。

人口減少や高齢化、若年層の流出。これらは本町が持続可能な町であり続けるために、今まさに向き合うべき現実です。

しかし、この状況を悲観せず、人口構造の変化を受け入れ、町民一人ひとりが豊かに暮らせる「次なる仕組み」へアップデートする好機と捉えることが大切です。

町民の皆さんと共に検討しました



審議会



検討会議



MIHAMA 高校生サミット



MIHAMA こどもサミット



町民・転出者アンケート

◆策定の体制と経緯

本計画の策定にあたっては、町民・転出者を対象としたアンケートを実施し、施策の現状に対する満足度や重要度、これから力を入れるべき分野等を分析しました。

また、次代を担う小中高生による「MIHAMAサミット」での提案やワークショップ、パブリックコメント等を通じ、若者世代をはじめとする多様な視点から意見やアイデアを収集しました。

これらを踏まえ、各種団体等の代表や町議会議員で構成される「審議会」、町職員で構成する「策定委員会」、町民と町職員で構成され各専門分野の施策

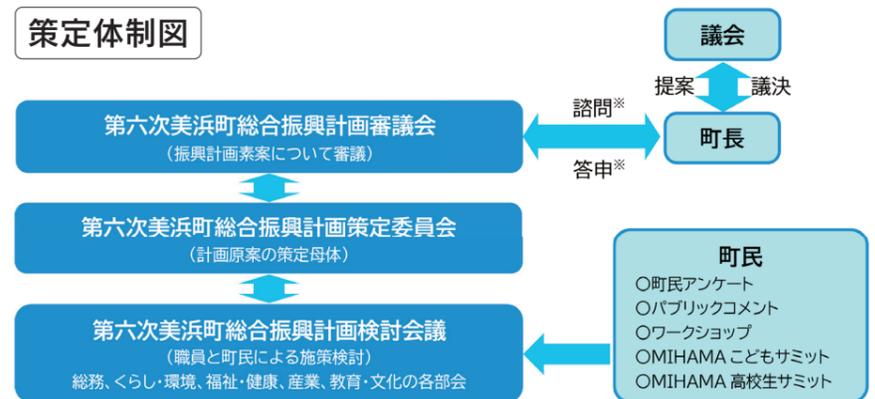


↑戸嶋町長(右)へ答申書を渡す鳥羽会長(左)

を検討する「検討会議」においてそれぞれ議論を重ねました。

そして、令和8年1月27日、審議会から戸嶋町長へ計画の答申があり、これを受けて町が策定しました。

策定体制図



※諮問…行政が専門家や有識者等に意見や判断、見解等を尋ねること
※答申…諮問機関(審議会等)が、諮問された事項について結果を、意見や勧告としてまとめた公式回答

INTERVIEW



総合振興計画審議会
会長 鳥羽 学さん

地域愛に満ちたまちづくりを目指して

計画の検討にあたっては、10年後の主役である子どもたちや学生の皆さんにも参加していただきました。皆さんのまちづくりへの希望を、計画に詰め込むことができましたと感じています。

計画は策定して終わりではありません。町に関わる人が一体となり、継続して取り組んでいくことが重要です。将来にわたって活力のある、地域愛に満ちたまちを実現するため、私たち一人ひとりには何ができるか、共に考えてまいります。

将来像

ひと育み 未来に挑む 共創のまち ~継承、進化する ^{うま} 美し美浜~

まちづくりの指針

- ・ 活躍と交流の「場づくり」
- ・ 未来志向の「人づくり」
- ・ 持続可能な「しあわせの基盤づくり」

基本目標

1. 学びで「未来」をひらく まち

【教育、文化】

学校・家庭・地域が連携した学びで一人ひとりの可能性を伸ばします。郷土への誇りや伝統文化の継承を通じて地域愛を育み、未来を切り拓く「人づくり」を進めます。

2. 健やかで「つながり」暮らせる まち

【保健・福祉・医療】

健康寿命の延伸や地域包括ケアシステムの深化、町民総ぐるみの健康づくり・介護予防を推進し、元気な高齢者が地域で活躍できる仕組みを整えます。切れ目のない子育て支援を充実させ、安心して暮らせる環境をつくります。

3. 新たな価値を創造し

「にぎわい」を育む まち

【産業、雇用】

ブランド化や高付加価値化等、本町の資源を生かした観光・産業振興を進め、「稼ぐ力」とにぎわいを高めます。若者や女性の就業・起業を支援し、多様な働き方や新たな「しごと」を生み出します。

4. 自然と「調和」する心やすらぐ まち

【環境、都市計画、エネルギー】

本町の豊かな自然環境を次世代へ継承するとともに、ゼロカーボンや循環型社会の実現に向けて取り組みます。計画的な土地利用や快適な住環境整備を進めます。

5. 共に「創る」安心安全な まち

【都市基盤、防災、交通安全】

地域防災力向上や災害に強いインフラ整備等を通じ、誰もが安心して暮らせる地域をつくります。デジタルを活用した分かりやすい情報提供に努める中で、防災意識の向上を図ります。

6. ひとが繋がりに未来に「挑む」まち

【人権、地域コミュニティ、行財政運営】

人権尊重や男女共同参画、国際交流を通じて多様性を認め合う社会を築くとともに、「応援人口（関係人口）（※1）」の拡充を図ります。行政や町民、企業、応援クルー等の共創により地域課題を解決し、持続可能な行財政運営を進めます。

基本計画

1. 豊かな人生を育む学びの推進
2. 主体性を育む学校教育の推進
3. 歴史・文化を未来へ繋ぐ学びの推進

1. 地域福祉の推進
2. こども・子育て支援の充実
3. 高齢者福祉・障がい者福祉の充実
4. 健康づくりの啓発と推進
5. 地域医療対策の推進
6. 医療保険事業の適正な運営

1. 農業の振興
2. 林業の振興
3. 水産業の振興
4. 商工業の振興
5. 観光の振興
6. 産業振興によるにぎわい創出
7. エネルギー施策と地域振興

1. 自然環境の保全とGX(※2)の推進
2. 快適な都市整備と交通体系の充実

1. 減災・防災対策の推進
2. 水道・下水道の整備
3. 町土保全対策の推進
4. 交通安全・防犯・消費者保護対策の推進
5. 原子力安全確保対策の強化

1. 多様性を尊重する人権教育・啓発の推進
2. デジタル化の推進
3. 地域愛に満ちたコミュニティの充実
4. 「応援人口」と共に創るまちづくり
5. 健全な行財政運営の推進

※1 移住した「定住人口」でもなく、観光に来た「交流人口」でもない、地域や地域の人々と多様に関わる人々のこと
 ※2 「Green Transformation」の略称。化石エネルギーに依存している経済・社会・産業の構造を非化石エネルギー中心の構造に移行させる変革のこと

■ 将来像（10年後目指す まちのすがた）

ひと育み 未来に挑む 共創のまち

~継承、進化する ^{うま} 美し美浜~

■ まちづくりの指針（将来像実現のための方向性）

未来志向の「人づくり」

地域への深い愛着と誇り（地域愛）を醸成し、変化を恐れず主体的に行動する「ひと」を育みます。すべてのまちづくりの起点は「ひと」であり、多様な学びと経験を通じて、美浜の未来を担い、切り拓く人材を創出します。



活躍と交流の「場づくり」

若者や女性、高齢者等誰もが輝ける魅力的な仕事や活動のフィールドを整備します。また、応援クルー等外部の力を積極的に巻き込み、多様な人々が交わり響き合うことで、新たな価値が生まれる「場」を創出します。

持続可能な「しあわせの基盤づくり」

まちの歴史・文化や豊かな自然環境を守り継承しつつ、デジタル技術や防災機能の強化により、誰もが安全・安心に暮らせる持続可能な生活基盤を盤石なものにします。心身の健康と快適な生活環境（ウェルビーイング(※)）こそが、挑戦と共創を支える揺るぎない土台となります。

※心身ともに満たされ、自分らしく幸せに生きている状態のこと

◆基本構想

町の課題を踏まえ、10年後の町の将来像と、その実現に向けたまちづくりの指針を上記のとおり決めました。また、分野ごとの6つの基本目標を掲げています。（左頁参照）
 本計画では、人口減少等の大きな変化を乗り越え、将来にわたって暮らし続けられるまちをつくるため、本町がこれまで大切にしてきた「一人」中心のまちづくりをさらに進化させるとともに、一人ひとりの「挑戦」を支え、多様な主体が手を取り合う「共創」によって、さらに一歩先へと進む町を目指します。

◆基本計画

基本計画は、基本構想で示す6つの基本目標を達成するための具体的な施策を定めたものです。（左頁参照）
 施策については、社会の変化や進捗状況に合わせて柔軟に見直し、適正に進捗管理を行いながら着実に実行していきます。

施策に係る
キーワード

3 命を守る強靱化

激甚化する自然災害や原子力特有のリスクから、町民や来訪者の命と財産を確実に守り抜くため、最優先で取り組むべき安全の基盤です。

優先
施策

- **デジタル技術を活用した災害情報収集・発信**
自然災害から命を守るため、デジタル技術で迅速かつ多言語による情報発信と安全な暮らしを確立します。
- **地域防災力の向上**
自助・共助を軸に自主防災組織の設立と活動の活性化、防災人材の育成を推進し、地域コミュニティの共助力の最大化に努めます。
- **災害に強い上下水道施設の構築と発災時の体制強化**
耐震化や計画的な更新により上下水道のインフラを強化し、将来にわたり安全・安心な生活基盤を維持します。
- **主要幹線道路の整備**
複合災害に備え、主要幹線道を「命の道」として整備・維持します。また、舞鶴若狭自動車道の4車線化や新庄～滋賀県高島市間道路の早期実現等、国・県と連携し緊急輸送網を確立します。
- **安全確保体制の強化**
関係機関と連携し、原子力の安全確保を最優先とした実効性の高い原子力防災体制と町民の安全・安心の確保に努めます。

施策に係る
キーワード

4 暮らしの質の最適化

人口減少下でも、全町民が健やかに、自分らしく、そして利便性を享受して暮らし続けられる「しあわせ」の質を担保するための施策です。

優先
施策

- **地域共生社会の実現に向けた地域福祉の推進**
地域で孤立を防ぐ交流の場をを広げ、支え合いと生きがいを育み、誰もが幸せを実感できる地域共生社会を築きます。
- **若い世代の仕事と子育ての両立を支える社会づくりの推進**
保育サービスや放課後児童クラブを充実させ、仕事と子育ての両立を支援し、若い世代が安心して自分らしい生活を送れる環境を整備します。
- **地域包括ケアシステムの深化・推進**
住民主体の介護予防や健康づくりを推進し、元気な高齢者が地域の担い手として活躍・交流できる場を充実させ、社会参加を通じた交流を促進します。
- **町民自身が取り組む健康づくり**
「げんげん運動プラスUP」の推進により生活習慣病を予防し、心身ともに健やかに暮らせる「しあわせの基盤」を築きます。
- **地域医療の充実**
嶺南地域の医療格差を是正するため、医療機能の高度化や体制再構築を関係機関へ要望していきます。
- **公共交通ネットワークの確保と利便性向上**
事業者等と連携し、バスや鉄道等のあり方を検討するとともに、効果的で持続可能な公共交通ネットワークを構築します。
- **良質な環境づくり**
スマートタウンや小規模分譲地を整備し、最新技術と良好な住環境を両立するとともに、地元で住み続けられる選択肢を広げます。
- **誰もが恩恵を享受できるDX(※)の推進**
高齢者等への支援で情報格差を解消し、誰もがデジタルの恩恵を享受できる「誰一人取り残さない」社会を築きます。
※「Digital Transformation」の略称。デジタル技術で人々の生活をより良いものに変革すること



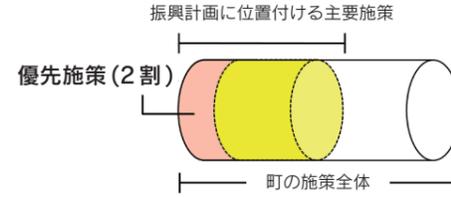
美浜町長 戸嶋 秀樹

みんなで作る、
ずっと住みたい「美し美浜」へ
社会が大きく変化する現在、
誰もが安心して住み続けられる
地域を築くことが、私たちに求
められる大切な使命です。
本計画では、先人が築き上げ
た伝統と誇りを受け継ぎ、町民
一人ひとりの「学びと挑戦」を
原動力に、新しい価値をみんな
で創り出すまちを目指します。
未来の美浜を創るのは、町民
の皆さん、事業者の皆さん、行
政、そして全国から美浜を支え
る応援クルーの皆さんです。全
員が共創の精神で手を取り合
い、誰もが幸せと誇りを実感で
きる「美し美浜」を築いていき
ましょう。

◆優先
施策

社会の大きな変化の中、すべての課題に一律に取り組むことは困難です。そのため本計画では、限られた行政資源を町の未来を左右する重要施策へ集中投入します。
本計画では、重要な「学びをエンジンとした挑戦」「稼ぐ力の強化と共創のシナプス」「命を守る強靱化」の4つのキーワードのもと、社会的ニーズや緊急性が特に高い21施策を「優先施策」に選定しました。これらを将来像実現に直結する柱として位置づけ、前期5年間で重点的かつ効率的に投資し、施策を横断的に推進します。

「優先施策」イメージ図



施策に係る
キーワード

1 学びをエンジンとした挑戦

本町の原点である「生涯学習」を、未来を切り拓き地域課題を解決するための「挑戦のエンジン」へと進化させます。外部からの人材獲得競争に頼るだけでなく、地域の中で次世代の担い手を継続的に育てる仕組みを最優先事項とします。

優先
施策

- **「みはまシナプスプロジェクト」による共創型人材育成の推進**
学びを糧に挑戦し、未来を拓く人材を育成します。また、放課後教室サン等を通じ、次世代の担い手を地域で育む体制を築きます。
- **地域とともにつくる魅力ある学校づくり**
地域への愛着を深めるとともに、将来を主体的に考える力を育むため、ふるさと学習やキャリア教育を充実させます。
- **主体的なまちづくりへの参画**
子どもや若者、女性の参画を促し多様なニーズを反映することで、若者や女性に選ばれるまちづくりを推進します。

施策に係る
キーワード

2 稼ぐ力の強化と共創のシナプス

若者や女性が「しごと」を理由に転出する現状を打破するため、既存産業にデジタルや付加価値を掛け合わせ、多様な人々がつながり響き合う交流の舞台(シナプス)を創出します。

優先
施策

- **未来に^{つな}ぐ安定した経営体づくり**
スマート農業と販路開拓で経営を効率化・高収益化し、若者や新規就農者が挑戦し活躍できる魅力ある農業を確立します。
- **水産資源の高付加価値化とブランド戦略の推進**
優れた鮮度保持・加工技術による高付加価値化を支援し、温暖化による不漁時でも安定収益を得られる構造を構築します。
- **地域経済の活性化**
特産品や体験商品の開発・造成、飲食・宿泊施設の充実、広域連携による魅力発信を強化し、周遊滞在型観光への転換により観光消費を拡大します。
- **経済活性化と滞在価値の最大化**
にぎわいゾーン(JR美浜駅～なびあす)に商業・サービス機能を集約するとともに、イベントや仕掛けで消費を促し「稼げるエリア」へと価値を高めます。
- **「みはまシナプスプロジェクト」を通じた共創の仕組みづくり**
官民や応援クルーとの共創を強化し、各々の知見を地域課題の解決につなぐマッチング体制で未来への挑戦を支えます。